

会社概要

商号	株式会社札幌ドーム
所在地	札幌市豊平区羊ヶ丘1番地
代表者	代表取締役社長 瀬戸 武
設立	平成10年10月1日
資本金	10億円
売上高	31億2,799万円(2009年3月期)
従業員	65名(2009年6月現在)
事業内容	札幌ドームの管理運営業務全般 [地方自治法及び札幌ドーム条例の規定に基づく札幌ドーム指定管理者] 1.貸館事業(アリーナ・諸室等のイベント利用への貸出及びイベント運営サポート) 2.商業事業(ドーム内の飲食物販事業の管理運営) 3.観光事業(ドーム展望台及びドーム見学ツアーの運営) 4.市民利用事業(草野球、サッカー練習場及びトレーニング室の利用管理) 5.広告事業(ドーム内広告看板の販売管理) 6.チケット事業(各種イベントのチケット販売管理)
株主	札幌市(55%)、札幌商工会議所、北海道電力(株)、北海道瓦斯(株)、(株)北海道新聞社、(株)北洋銀行、(株)北海道銀行、サッポロビール(株)、(株)プリンスホテル、(株)竹中工務店、大成建設(株)、北海道コカ・コーラボトリング(株)、(株)電通、(株)電通北海道、(株)大広、東日本電信電話(株)、近畿日本ツーリスト(株)、(株)NTT東日本一北海道、エヌ・ティ・ティ北海道テレマート(株)、北海道キリンビバレッジ(株)、北海道ペプシコーラ販売(株)、(株)JTB北海道、(株)JTB商事、北海道放送(株)、札幌テレビ放送(株)、北海道テレビ放送(株)、北海道文化放送(株)

札幌ドーム 環境報告書 2008



札幌ドーム「社会と環境への取り組み」

ひとりひとりがエコプレイヤー
SAPPORO DOME

札幌ドームの「社会と環境への取り組み」についての最新情報は
下記ホームページをご覧ください。

<http://www.sapporo-dome.co.jp>



SAPPORO DOME
Hiraba

株式会社 **札幌ドーム**

〒062-0045 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 TEL011-850-1000(代) FAX011-850-1011

発行:2009年6月 ※2009年6月現在の資料をもとに作成しています。内容は変更になる場合があります。

資源と環境の保護を考え、本紙には適切な森林管理の下で生産された木材を使用し、作られた「森林認証紙」を使用しております。



インクは大豆油インクを使用しています。



SAPPORO DOME
Hiraba

2008年は北海道洞爺湖サミットが開催され、様々な取組みが全国的に活発に行われるとともに、国民の環境問題への意識も高まりを見せた一年となりました。

私たちは、札幌ドームが環境に与える負荷のうち特に地球温暖化ガス排出と廃棄物発生に着目し、これらを削減してゆくことを企業活動の重要課題と位置付けました。そして2008年3月には「環境方針」「環境行動指針」を策定するとともに、2012年度末までに達成するべく「環境数値目標」(CO₂削減、一般廃棄物削減、リサイクル率向上)を定め、“札幌ドーム ECO MOTION～ひとりひとりがエコプレイヤー～”のコンセプトのもとで活動を推進いたしました。

2008年の各活動の結果、CO₂削減対策では積極的な省エネ設備への環境投資により確実に数値改善をしております。また、廃棄物削減とリサイクル率向上では各種ごみ処理方法の見直しや関係者の細かい分別への取組み、とりわけご来場者のみなさまのリサイクルポストでのごみ分別のご協力により、2012年度末の数値目標を既に達成することとなりました。

この成果につきましては、札幌ドームの環境活動にご理解とご協力をいただきましたすべてのお客さま(ご来場のみなさま、主催者のみなさま、ボランティアのみなさま、お取引先企業のみなさまなど)の賜物であると心より感謝いたしております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

私たちは、環境問題への取組みを一過性のものではなく永遠の経営課題として、すべてのお客さまとともに「環境にやさしい施設」を目指して環境活動を継続してまいります。

2009年6月

株式会社 札幌ドーム 代表取締役社長 瀬戸 武

スポーツ&エンターテインメントを発信する夢と感動のステージ、札幌ドーム。

札幌ドームは、2001年に北海道最大・日本最北の全天候型ドームとして誕生。ホヴァリングサッカーステージによってサッカーと野球いずれの開催も可能で、世界で唯一、「コンサドーレ札幌」と「北海道日本ハムファイターズ」というサッカーと野球の2つのプロチームの本拠地としても親しまれています。コンサートや展示会など多様なイベントも開催し、スポーツやエンターテインメントの発信拠点として多くの夢と感動を生んでいます。

[経営理念] Our Mission, Value, Vision

私たちはエンターテインメントビジネスを通して、常に最高のホスピタリティを追求し、すべてのお客さまの夢と感動を実現するステージを創造します

[行動指針] Guiding Principles

すべてはお客さまのために

- ・視野を広く、発想豊かに新たな価値を創造します
 - ・思いを一つに、ともに楽しみ、喜びを共有します
 - ・高い理想を掲げ、責任と誇りをもって行動します
- 私たち一人ひとりが札幌ドームです

[環境方針]

私たちは、みらいの子供たちに美しい地球を残し、札幌ドームを環境にやさしい施設として維持し続けることを使命として、訪れるすべてのお客さまとともに、よりよい環境づくりに向けて取り組みます。

[環境行動指針]

- 1.私たちは、事業活動全般が環境側面に関わる環境関連法規、規制、協定等を順守します。
- 2.私たちは、事業活動全般に関わる環境側面として、以下のことを環境管理重点テーマに取り組みます。

① CO₂排出量の削減および省エネルギーに努めます… P.3

② 廃棄物の排出の削減に努めます …………… P.4

③ 資源循環を促進するためリサイクルに努めます… P.5・6

④ 環境問題の啓発啓蒙および情報発信に努めます… P.7・8

- 3.私たちは、環境方針達成のため、札幌ドームで働く全従業員に周知徹底を図るとともにすべてのお客さまに理解と協力を求めます。

[環境目標]

札幌ドームの環境数値目標は「10・20・30」です。

- CO₂排出量を2006年度より10%削減します。
- 一般廃棄物の排出量を2006年度より20%削減します。
- リサイクル率を30%以上にします。

上記すべての数値目標を2012年度までに達成します。

■ 札幌ドーム 環境コンセプト

札幌ドーム ECO MOTION
～ひとりひとりがエコプレイヤー～

■ 札幌ドーム 環境シンボルマーク



エコプレイヤー宣言



わたしのエコプレイヤー宣言

いつでも、どこでも、ごみは「最小限・コンパクト」を心掛けます。

エコプレイヤー宣言



わたしのエコプレイヤー宣言

裏が白い紙はメモ用紙に。紙を再利用することで環境を守ります。

エコプレイヤー宣言



わたしのエコプレイヤー宣言

札幌ドームで使うエネルギーを削減するため、省エネ運転に最大限努めます。

エコプレイヤー宣言



わたしのエコプレイヤー宣言

巡回警備の時にエレベーターの使用を控え階段を使います。

エコプレイヤー宣言



わたしのエコプレイヤー宣言

レジ袋削減に向けて、お客さまへのお声かけに努めます。

エコプレイヤー宣言



わたしのエコプレイヤー宣言

マイ箸、マイカップを連れて使います。

ひとりひとりがエコプレイヤー



札幌ドームでは、イベントに関わるひとりひとりが「エコプレイヤー」。お客さま、札幌ドームを本拠地とするプロチームの選手、主催者、業務委託会社の皆さまとともに、環境について考え、行動する場を目指しています。

エコプレイヤー宣言



わたしのエコプレイヤー宣言

自然との共生を目標にしています。

CO₂排出量の削減 および省エネルギーに努めます

二酸化炭素(CO₂)排出量の削減と省エネルギーを推進するために、環境にやさしい技術や工夫を数多く導入しています。

[環境目標] CO₂排出量を2006年度より10%削減します。

省エネ型の設備を積極的に導入

2007年以降省エネルギー型の給湯器「エコキュート」の導入、「空調用ポンプ省エネ制御システム」の導入、ボイラー室換気ファンのインバーター制御による過換気の抑制など、省エネ設備の導入・制御改良を積極的に行っています。



ごみを圧縮して減容化

回収した紙カップ、紙トレイ・弁当外箱、ペットボトルは、圧縮して減容化。輸送効率を高め、二酸化炭素の削減に努めています。



ごみ圧縮機
2008年3月に導入。

圧縮したごみは約10分の1の容積に。(紙カップの場合)

半地下構造で断熱性を高めています

アリーナの大部分が土に囲まれた半地下構造のため、建物全体の断熱性が高まり、冷暖房用のエネルギー消費を抑えることができます。さらに、ドーム壁面の高さが低くなっていることで、いわゆるビル風を抑える効果もあります。



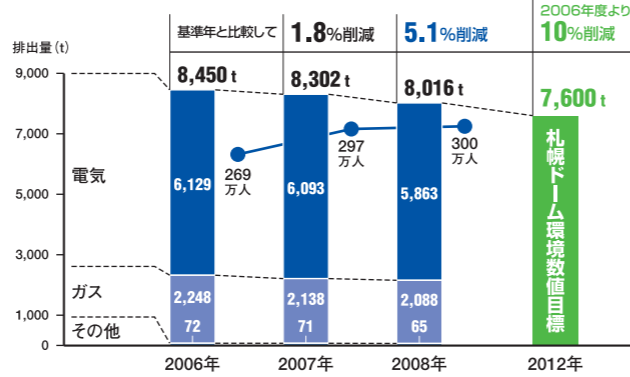
スタンド席を局所空調

アリーナすべての冷暖房では多くのエネルギーが必要なため、スタンド席の足元から冷気・温風を吹き出し、座席周辺に的を絞った局所空調を行っています。さらに、スタンド全体を12に区分した空調ゾーンングにより観客数に応じた冷暖房で省エネルギーを図っています。



館内の空調ゾーンング図

札幌ドームのCO₂排出量の推移



札幌ドーム環境数値目標
環境目標 2006年度より10%削減

省エネ設備の導入と照明、空調等の効率的運転やプロ野球界が進めた試合の「SPEED UP」が功を奏しました。省エネ設備では特に空調用ポンプ省エネ制御システムは導入9ヶ月間でCO₂排出量が昨年比約200t削減と大きく寄与しました。

省エネを考慮して照明モードを切り替え

イベント、市民の草野球利用、ドームツアー、清掃など、それぞれの使用状況に適した照明モードを選択して省エネルギーに努めています。



イルミネーションにグリーン電力を採用

2007年と2008年の冬期間、札幌ドームを彩ったイルミネーションの電力として、風力発電による自然エネルギーを利用したグリーン電力を採用しました。



自然採光を積極的に利用

壁面の多くがガラス面で、天井にも丸型の天窗(トップライト)を設けています。非イベント時は自然の光を積極的に取り入れることで、照明の点灯数・時間を最小限に抑えています。



自然換気でエネルギーを抑制

天井の開閉式パネルと、オープンアリーナ・屋内アリーナを仕切る開閉式扉の開閉部の操作でアリーナ内の自然換気ができます。これにより、冷暖房のエネルギー消費が抑えられています。



廃棄物の排出の削減に努めます

ごみの分別回収などお客さまにも大きな理解と協力をいただきながら、廃棄物の排出を削減する取り組みを積極的に進めています。

[環境目標] 一般廃棄物の排出量を2006年度より20%削減します。

ごみの分別回収を推進

2007年からリサイクルポストを設置し、イベント時のごみは、お客さまに分別をお願いしています。リサイクルポストは、より分かりやすいようにイラストを入れるなどの改良を重ね、現在は「一般ごみ」「紙トレイ・弁当外箱」「飲料用紙カップ」「氷・飲み残り・フタ・ストロー」の4種類に分けていただいています。分別回収にご協力いただくことでリサイクルが進み、焼却するごみの量を減らすことができました。



館内各所にリサイクルポストを設置してごみを分別回収。多くのお客さまの協力でリサイクルに取り組み、廃棄物の排出の削減は確実に進んでいます。

芝ごみの分別で埋め立て廃棄物量を削減



天然芝サッカーグラウンド(2面)の芝の根切り作業で発生する芝・根と砂が混じったごみは、スタッフが手作業で分別。芝や根だけを焼却ごみとし、砂はサッカーグラウンドのメンテナンスの際に再利用することで、廃棄物の量を大幅に削減しています。(2007年秋より実施)

※根切り良質な芝の育成には欠かせない作業で、札幌ドームでは年2回程度実施

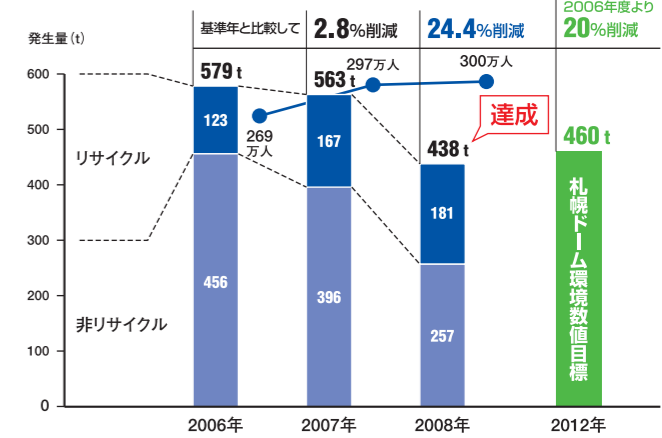
根切り作業の際の芝ごみは、2006年は75.4トンに上っていましたが、芝・根と砂を分離することで2008年には16.5トンと4分の1以下に減量できました。

札幌ドームのイベント開催時には、約6トンのごみが排出されています

札幌ドームの観客席が満員になるようなイベント開催時は、4万人以上のお客さまをお迎えします。この時に排出されるごみは、飲料用紙カップや弁当の容器などを中心に約6トン。これは、一般家庭約2,000軒分から出るごみとほぼ同じ量です。



札幌ドームの一般廃棄物の発生量の推移



札幌ドーム環境数値目標
環境目標 2006年度より20%削減

芝のメンテナンス時の砂の分離作業は削減に大きな効果がありました。また、排出する様々なごみを細かく分類したり計量方法を変更したことも要因のひとつです。

売店のレジ袋削減を進めています

コンコース売店・ワゴン売店では2007年2月より原則としてレジ袋をお渡しせず、必要なお客さまにのみお渡しすることでレジ袋削減を進めています。



コンコース・ワゴン売店は場内31箇所。来場されるお客さまの理解が進み、レジ袋削減の取り組みも浸透してきています。



資源循環を促進するため リサイクルに努めます

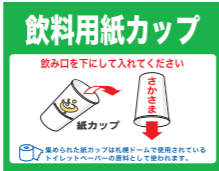
お客さまとイベントの主催者・業務委託会社さまの協力のもとに、紙カップや紙トレイ・弁当外箱などのリサイクルに取り組んでいます。

【環境目標】リサイクル率を30%以上にします。

イベント開催時に発生するごみの、リサイクルを進めています

紙カップのリサイクル

ソフトドリンクやビールなどの飲料用紙カップは、2007年7月から本格的に分別回収をスタート。リサイクルポストを利用して分別をお願いし、多くのお客さまの協力によって高い回収率を達成しています。集めた紙カップは製紙工場に運び、トイレットペーパーの原料としてリサイクルしており、札幌ドーム館内および事務所ではこのトイレットペーパーが使われています。



道内の製紙工場
トイレットペーパーの原料に利用されます。



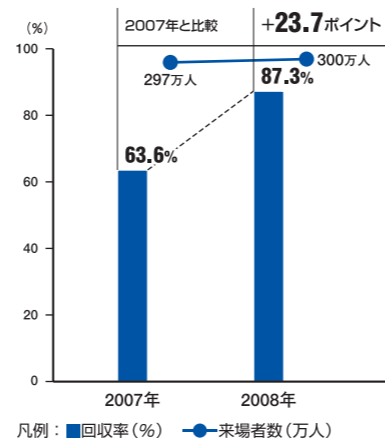
分別が浸透し、よく協力いただけるようになってきました

ハーフタイムや試合後などにリサイクルポストの横に立って、ごみの分別を呼びかけていますが、段々に分別の方法も浸透してきて、最初の頃に比べるとすごくよく協力してくれるようになりました。お子さんたちがとても積極的に協力してくれるのが、うれしいですね。これからももっと多くのお客さまに協力していただけるよう、頑張っけていきたいと思っています。



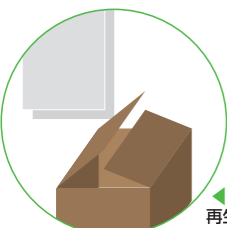
コンサドーレ札幌 ボランティアスタッフ 長岡 恵津子さん

紙カップ回収率の推移



弁当外箱・紙トレイのリサイクル

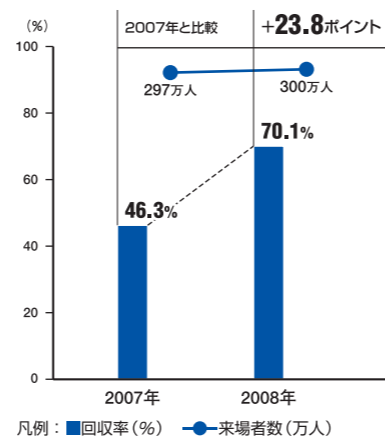
飲み物などを運ぶ紙トレイと弁当の外箱も、2007年9月からお客さまの協力を得てリサイクルポストで分別回収しています。これらを再生紙やダンボール紙の原料としてリサイクルすることで、焼却ごみの量を減らしています。



製紙工場に運ばれ、再生紙やダンボール紙の原料に利用されます。



弁当外箱回収率の推移



RECYCLE POST

「リサイクルポスト」以下の4種類にごみを分別回収しています

ごみの分別回収には、イベント主催者さまから理解をいただき、お客さまへの呼びかけなどにも協力をいただいています。

一般ごみ

わりばし クリアカップ

食べ残し/弁当中容器 プラスチック製品

紙トレイ・弁当外箱

紙トレイ 弁当外箱

飲料用紙カップ

飲み口を下に入れてください

紙カップ

氷・飲み残し フタ・ストロー

氷・飲み残し ストロー



ダンボールのリサイクル

札幌ドーム内の飲食店舗などから出る不要なダンボールは、各業務委託会社さまに協力をいただいて、再びダンボール紙としてリサイクルするために、まとめて回収を行っています。



製紙工場に運ばれダンボール紙の原料に利用されます。まとめて回収したダンボールは、製紙工場に運ばれてダンボール紙の原料に利用。資源循環を促進するために、さまざまな面からの取り組みを続けています。

ビン・缶・ペットボトルのリサイクル

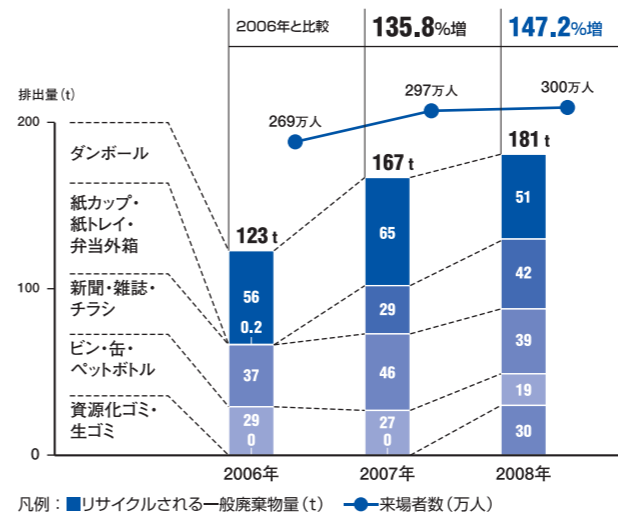
札幌ドームでは、来場されるお客さまにビン・缶・ペットボトルなどの飲み物容器の持ち込みを遠慮いただいています。持ち込み飲料は入場時に紙カップに移し替え、回収したビン・缶・ペットボトルはリサイクルを行っています。



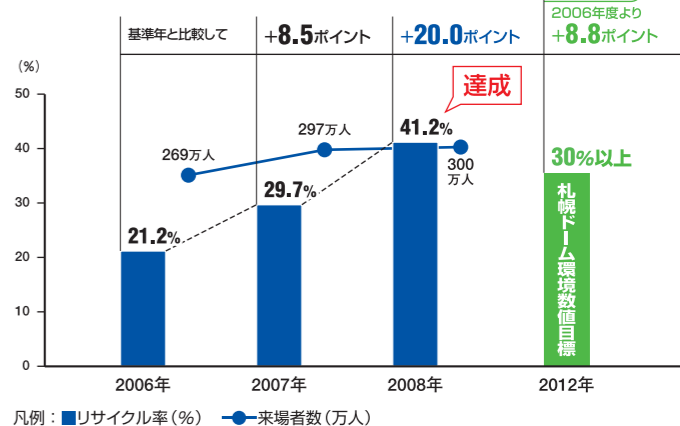
回収業者で材質別に仕分けされた後、各再生工場に運ばれて、新たな製品に生まれかわります。

- ペットボトル → 衣類・卵パック・パレット 等
- 缶 → 飲料缶・自動車材料・建築材料 等

札幌ドームのリサイクルされる一般廃棄物量の推移



札幌ドームのリサイクル率の推移



ご来場のお客さまのご協力に加えて各チームボランティアの呼びかけがリサイクル率向上の推進力となりました。また、主催者、委託事業者、社員等によりさらに細かく生ごみや資源化ごみなどの分別も行いリサイクルを推進しています。

「バイオマスプラスチック」製カップの導入

2008年3月より、各種ドリンク販売用に使用されるクリアカップに、とうもろこしのデンプンを原料にした「バイオマスプラスチック」製カップを導入しています。



飲食売店の野菜くずなどを堆肥化

飲食売店などで調理に使った野菜くずなどを回収し、生ごみ処理機を利用して堆肥化。でき上がった堆肥は、札幌ドームの植栽などに利用しています。また、イベント終了後、廃棄処分の弁当がある場合は、スタッフが1個ずつ中身を確認して細かく分別。生ごみは堆肥化するなど、リサイクルに努めています。



各種印刷物の印刷用紙を変更

チケットケースや広報誌などの印刷用紙を、北海道の資源と環境保護を考え、道産間伐材を使用した紙などに変更しました。

グリーン購入・エコマーク商品などの購入を促進

事務用品および敷地内で使用するイベント用の備品などについて、可能な限り環境負荷の低減に役立つ商品を積極的に購入しています。

環境問題の啓発啓蒙 および情報発信に努めます

札幌ドームの環境についての取り組みを多くの方々に知っていただき、さらに大きく輪を広げていくために、さまざまな活動を展開しています。

「環境総合展2008」に出展、 様々な啓発啓蒙活動を実施しました

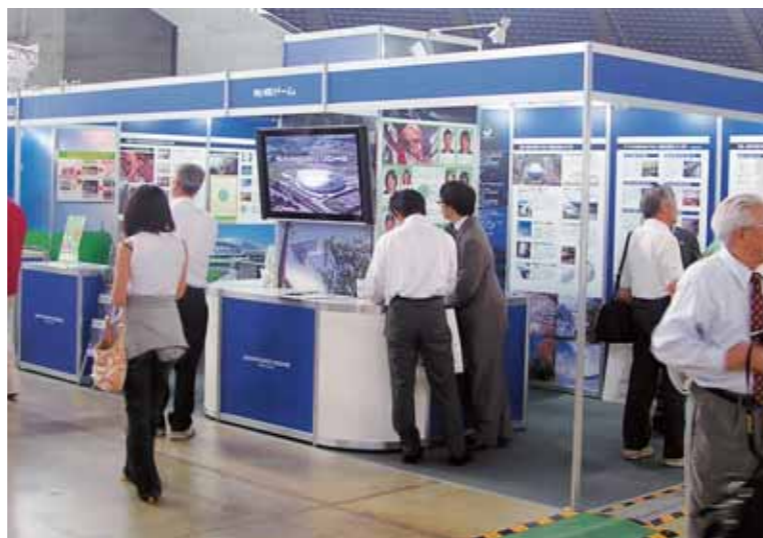
2008年6月に札幌ドームで開催された「北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008」には、札幌ドームとして環境への取り組みを伝えるためのブースを出展。二酸化炭素の削減や省エネルギー、リサイクルなどに関して、札幌ドームが実践している様子をパネルやパンフレットなどにまとめ、来場された多くのお客さまに紹介しました。



▲札幌ドームの社員も運営ボランティアスタッフとしてごみ分別の案内などを担当しました。

◀「エコプレイヤー宣言」に協力を呼びかけました

来場されたお客さまにも環境への取り組みについてできることを考えていただくこと、「わたしのエコプレイヤー宣言」の記入を呼びかけ、多くの方にご協力いただきました。



環境設備などを巡る「エコツアー」も実施

札幌ドーム内の省エネ型の設備やごみ処理室などをご見学いただいたほか、天然芝のサッカー場では芝ごみの分別で廃棄物を削減していることなどを説明しました。



「子ども環境サミット札幌」環境学習

2008年7月の「北海道洞爺湖サミット」記念事業として実施された「子ども環境サミット札幌」。このプログラムの一環で、国内外の約160人の子どもたちが、札幌ドームで環境学習を行いました。



自主イベント等での環境コーナーを設置

札幌ドームの自主イベント「ふわふわアドベンチャーin札幌ドーム」などの開催時に、環境コーナーを設置。来場されるお客さまに環境への取り組みを紹介しています。



「社内エコ行動」に取り組んでいます

離席時のパソコンディスプレイの電源オフなど節電の徹底、クールビズ・ウォームビズの推奨など、「社内エコ行動」を策定。月別に強化項目を決め、社員ひとりひとりが積極的に取り組んでいます。



意識をさらに高める社内教育を推進

社員の環境に対する意識をさらに高めるために、外部講師による講演会などを開催し、社内教育を徹底しています。温室効果ガスの削減に取り組む「チーム・マイナス6%」などの活動も行っています。



ひとりひとりが エコプレイヤー



「環境コンセプト」の推進を目指して環境コンセプト「札幌ドームECO MOTION～ひとりひとりがエコプレイヤー～」への理解を深め、イベントに関わるひとりひとりがエコプレイヤーとなって、環境にやさしい取り組みを進める活動に協力いただいています。

わたしのエコプレイヤー宣言
地球環境へ向けてのフェアプレーを心掛けます。
コンサドーレ札幌 藤田 征也 選手

わたしのエコプレイヤー宣言
みなさんと一緒に地球の自然を守ります。
コンサドーレ札幌 田西 大伍 選手

わたしのエコプレイヤー宣言
温暖化ストップ。環境への取り組みもファイターズはサミットを目指します。
北海道日本ハムファイターズ 田畑 昌孝 選手

わたしのエコプレイヤー宣言
攻守交代は常に全力疾走。試合のスピードアップに貢献します。
北海道日本ハムファイターズ 田畑 昌孝 選手

エコプレイヤー宣言
レジ袋削減に向けて、お客さまへのお声がけに努めます。
わたしのエコプレイヤー宣言

エコプレイヤー宣言
巡回警備の時にエレベーターの使用を控え階段を使います。
わたしのエコプレイヤー宣言

※「エコプレイヤー宣言」はお客さま、コンサドーレ札幌、北海道日本ハムファイターズの両球団と監督、選手ならびに札幌ドーム業務委託会社の皆様のご協力のもと制作しております。

「札幌ドームプレゼンツナイター～ひとりひとりがエコプレイヤー～」開催

2008年7月2日、札幌ドームがゲームスポンサーとなり、北海道日本ハムファイターズ戦「札幌ドームプレゼンツナイター～ひとりひとりがエコプレイヤー～」を開催しました。試合に先立って、子どもたちに「エコ宣言」をしてもらったほか、特製応援ボードの配布や環境ブースの設置などで環境への取り組みをアピールしました。



ファイターズの森本稀哲選手やマスコットのB・Bとともに、子どもたちが「エコ宣言」をしました。「みらいシート・キッズ」から選ばれた子どもたちがグラウンドに立ち、たくさんのお客さまの前で力強く宣言してくれました。



▶応援ボードを作成

札幌ドームの環境コンセプトなどを取り入れた特製のファイターズ応援ボードをお客さまに配布しました。



「マイお買い物袋」を配布

2007年～2008年シーズンに札幌ドームで開催された北海道日本ハムファイターズ戦のうち7試合で、計12万枚の「マイお買い物袋（エコバッグ）」を配布しました。

ファイターズ戦に会場されたお客さまに配布した「マイお買い物袋」。レジ袋の削減などにつなげていただけるようアピール。



事例発表などにも積極的に参加

情報交換会などに参加する機会を活用し、環境問題の啓発に少しでも役立てるように、札幌ドームの環境への取り組みについての事例発表などを積極的に行っています。



わたしのエコプレイヤー宣言
緑の中で生活できると資源を大切にしていきたい。
みい

わたしのエコプレイヤー宣言
ドームのエコ。ファイターズがリード！応援します。
ほのか



▲多数の「エコプレイヤー宣言」を掲示させていただきました。(2008年度計3,155名)お客さまが次々と環境ブースを訪れ、リサイクルや省エネ、ごみの問題など、それぞれにとって身近なよりよい環境づくりへの目標について記入してくださいました。



「エコプレイヤー宣言」ノベルティ

記入いただいたお客さまへ、札幌ドームのマウンドなどの土、ホヴァリングサッカーステージなどの天然芝の種、ポケットティッシュをプレゼント。



環境に関する情報を広く発信

環境への取り組みに関する新たな情報については、札幌ドームのホームページやパンフレットのほか、新聞、広告などを通じて広くスピーディーに発信しています。



「第10回グリーン購入大賞」にて「大賞」を受賞

環境に配慮した製品などを優先購入するグリーン購入の普及拡大に取り組む団体を表彰する「第10回グリーン購入大賞」で「大賞」を受賞しました。



「さっぽろエコメンバー」に登録

環境にやさしい取り組みを自主的に行う事業所を札幌市が登録する「さっぽろエコメンバー」に登録しています。



幅広い角度から、 よりよい環境づくりへ

CSR (企業の社会的責任) の観点から、お客さまと社会、地域の皆さまにとってよりよい環境づくりのために新たな取り組みを続けています。

すべてのお客さまにやさしい施設を目指しています

車いす席の一部を改修

車いすをご利用のお客さまに野球やサッカーをより快適に観戦していただけるように、2008年に車いす席の一部を改修しました。



男女ともに使える授乳室を用意

オムツ交換台や調乳専用の浄水器・温水器付きシンクなどを設置した男女共用スペースと、女性専用の授乳スペースを用意しています。



■1階コンコース内北ゲート側

- ※イベント開催時のみご利用となります。
- オムツ交換台 (3台) うち、1台は車いす対応
- オムツ自動販売機
- 調乳専用浄水器・温水器付きシンク
- 休憩用ベンチ
- 授乳用チェア (4脚)
- テレビモニター (2台)

■3階ベビーコーナー奥

- ※キッズパーク営業中は、いつでもご利用いただけます。
- 授乳用チェア (1脚)



赤ちゃんの授乳のほか、オムツの交換などにもご利用いただけます。

階段の昇り降りが少ない「優し〜と」



お年寄りや妊娠されているお客さま、乳幼児をお連れのお客さまなどのために、階段の昇り降りが少ない座席「優し〜と」を設置しています。



分煙環境の改善

分煙環境を改善するために、喫煙室の換気能力を増強するとともに、煙が外に流れ出しにくいように入り口を引き戸に交換しました。



身障者の車両送迎を便利に

身障者の皆さまの利便性を考え、事前に予約をいただくと、無料で札幌ドーム敷地内にて送迎車両から乗降できるように改善しました。

お子さまも一緒に楽しめるように

お子さまが元気に遊べる大型複合遊具を備えた「キッズパーク」を設置。ご家族で観戦できる「ファミリーシート」も併設しています。



▲ファミリーシート

お子さま連れのお客さまの増加に対応し、ファミリーシートや2歳以下を対象としたベビーコーナーも併設。

▲キッズパーク
イベントが開催されない日は無料でご利用いただけます。



ベビーコーナー▶

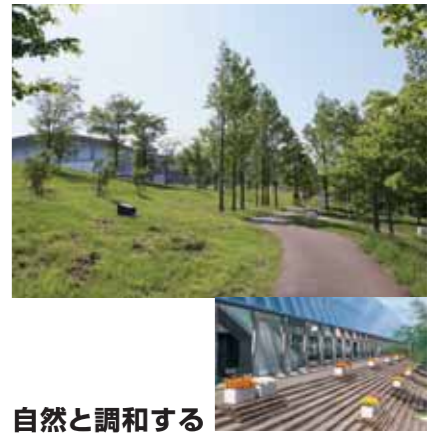
より見やすく 案内サインを一新

館内および敷地内すべての案内サインを、2007年からより見やすいデザインに一新。目的の場所へ簡単に移動できるようにしています。



自然と調和する 環境づくりを進めています

札幌ドームは、敷地全体にガーディング(庭造り)の手法を取り入れ、自然と調和した環境づくりに力を入れています。敷地内の8,000本の木々や色とりどりの花などを、さまざまなアートとともに季節ごとに楽しんでいただけます。



社会、地域の皆さまへの貢献事業に取り組んでいます

「札幌ドームみらいシート」

「札幌ドーム みらいシート」は、2008年からスタートした、コンサドーレ札幌と北海道日本ハムファイターズの札幌ドーム開催全試合に、札幌市内の小学3年生を保護者とともに招待するプロジェクトです。プロ

未来へ向かって！



札幌ドーム
みらいシート
SAPPORO DOME MIRAI SEAT

サッカー・野球の観戦を通して、子どもたちがスポーツへの関心を高め、地域・学校・家族の絆が深まることを期待しています。各試合25組50名を抽選で招待しており、「みらいシート・キッズ」が続々と誕生しています。



2008年度は2,840名の方々をご招待しました。



トレーニングルーム無料開放デー開催

各種トレーニングに対応したマシンをそろえ、トレーナーのアドバイスをなども受けられるトレーニングルームを館内に設置。運動教室なども随時、実施し、初心者から経験者まで、健康づくりや体力づくりを目指す皆さまに積極的に活用いただいています。

2006年からは、「無料開放デー」を開催し、より多くの地域の皆さまが気軽にトレーニングを始められる機会を提供しています。



自主イベントなどの開催

より多くの皆さまに札幌ドームを身近に感じていただけるように、企画・立案から手がけるさまざまな自主イベントなどを開催しています。

Winter Athletic Field ~Hirobaで遊んで、学んで~

お子さまたちが遊んで、学んで、楽しく過ごせる体験型のイベントです。札幌ドームの広いアリーナを活用してさまざまなアトラクションを展開し、2008年は紙ヒコーキ教室や木製ブロック「カプラ」などのほか、ニュースポーツ「Zorb」や遊具などで体を動かしていただきました。



コールセンターの充実

電話での問い合わせにお答えするコールセンターは、2007年から専門スタッフが担当し、迅速な対応でお客さまへのサービスの向上に努めています。

地域との共生

札幌ドームは、地域とのより良い共生を願って、さまざまな活動に積極的に参加し、「地域の皆さまに貢献できる」施設を目指しています。



地元中学生が職業体験

札幌ドームは地域貢献の一環として、地元中学校が総合学習で取り組む職業体験に協力し、館内の清掃業務などを体験してもらいました。

